

アグリイノベーション 農業の未来をみなさんと共に (有限会社難波支店)

＜法人の概要＞

所在地：島根県雲南市

設 立：昭和25年9月

資本金：1,000万円 売上高：2,000万円（平成23年）
（うち農業：2,000万円）

役 員：2名（うち農作業従事1名）

従業員数：28名、うち農業従事者2名

経営面積：5.0ha 営農作物：水稻、野菜、花卉

農業開始時期：平成19年7月



ビニールハウス栽培状況（ミニトマト等）



葡萄袋かけ状況（巨峰等）

＜農業参入に至った経緯・動機＞

有限会社難波支店は、主力事業として教育学習支援業（自動車教習所）のほか、スポーツ用品販売事業を運営していたが、社員の継続雇用を考え、平成12年に旧木次町等を中心に水稻の刈り取りや乾燥調製作業を受託する農作業受託事業を開始した。

また、旧木次町は、中山間地域であり農業経営の条件は厳しく、農家の高齢化や後継者不足から耕作放棄地が増え、地域農業・地域社会の崩壊を危惧していた。このような状況下、同社は産業としての農業を守るだけでなく、「のどかな田園風景を守り、田舎の良さを受け継ぐ手伝いができれば」との思いもあり、平成19年7月から本格的に農業へ参入することになった。

〈農業参入することを決めてから営農開始まで〉

農家は、代々引き継いだ水田に自分たち以外の者が入ることを嫌い、当初はなかなか作業をさせてもらえなかったため、農家から信頼を得られるよう親切、丁寧な仕事を心がけた。また、非効率ではあるが、小規模農家からの依頼も出来るだけ引き受け、地域からも頼られる存在となるよう努めた。この間、10年の年月を要した。さらに、既存の受託組織や農家との競合を避け、地域との融和に努めた。

〈営農開始から現在まで〉

水稻の作業受託のみでは冬季期間中の仕事がないため、社員を年間雇用とすることは困難であったことから、野菜や花きの栽培に取り組み、通年作業の体系を構築した。

しかし、冬季期間中は燃料費の高騰から予想以上にコストがかかり、採算面から独立した事業とすることは困難なため、計画の改善を検討している。

また、利用権による依頼が多くなり、当初から行っている作業受託が減少する傾向にある。米価の低迷も続いている中で、自力販売を伸ばしていくためにも、年間の労働力確保が喫緊の課題となっている。

〈今後の農業経営の展開方向〉

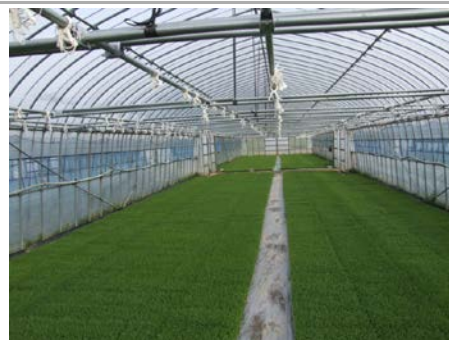
- ① 年間を通じて、商品が販売可能となるよう、商品の年間平準化に取り組む。
- ② 従業員の年間作業の平準化、雇用に向けて可能な限りタイムカード等で管理が出来るようにする。
- ③ 水稻については、利用権設定が一方的に入ってくる状況であり、計画的な耕作が出来ない状況となっているため、改善を行う。
- ④ 農産物の加工にあたっては、研究室等を整備しながら取り組んでいく。
- ⑤ 雇用の継続と農業部門の自立のためにも、農産物の生産から販売まで行う「農業経営」の拡充を一層図る。

〈今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス〉

- ① 年間雇用を守ること。
- ② 農業は「たべもの」をつくる産業である。
- ③ とにかく、信用が第一。
- ④ 長期的投資の覚悟が必要である。（資金的体力が必要）



能率向上に新播種機導入



育苗状況（コシヒカリ等）

